

## 4 研究の実際

### (1) 学習指導研究部の取組

学習指導研究部会では、確かな学力の育成を目指した授業及び学習指導に関する研究を行った。特に、PDCAサイクルによる授業展開の工夫と学び合いの実践を中心に取り組んできた。

#### ア 各教科におけるPDCAサイクルについて

##### (7) 教師側のPDCAサイクル

各教科におけるPDCAサイクルを確立させるために、「自己目標設定シート」(図1)を作成した。学期ごとに振り返りを行い、必要に応じて修正を加えて実践していくことで、それぞれの教科における目標の達成を目指した。

##### (1) 生徒側のPDCAサイクル

各教科の授業において、生徒自身が見通しを持って臨み、授業後には学習内容を振り返り、次時の学習内容へつなげることができるような予習→授業→復習の学習サイクルの徹底を図った。

(図1)

#### イ 「学び合い」の徹底に向けた取組

##### (7) 「授業展開モデル」の改善

昨年度作成していた「水一中版 授業展開モデル」を見直し、課題であった「学び合い」に焦点を当てたモデルに改良し、全教科での共通実践が図られるように、職員室のあらゆる場所に掲示した。(図2)

また、この展開モデルが徹底できているかについて、1学期末と2学期末に職員がそれぞれ自己評価を行い、集計して成果の検証を行ってきた。(図3) 1学期末には、まだ依然として「学び合い」に明らかな課題が見られたので、その対策のために、「学び合い」について職員の学習会を行ったり、生徒への説明会を行ったりした。さらに、研究授業の際にも、この展開モデルに沿って授業が進められているかという視点で評価するようにした。その後、2学期末には、全ての項目において評価の伸びが見られた。

##### (1) 「研究授業」の実際

研究授業を繰り返しながら、授業者及び参観者とも、組織として「学び合い」について研究を深めていった。

##### (事例) 数学の授業研究会

授業後の振り返りでは、「3人組での教え合いは、人数としてもちょうどよかった。横に一列に並んでいる配置が話をしやすくしていると思う。」「一人一人の考えがはっきり分かるように名札カードを使っているのはよかった。」等という意見が出され、新たな「学び合い」の形を見出していききっかけとなった。



#### 【平成27年度版】 水一中版 授業展開モデル ※全教科で共通実践をしていきましょう!

|   |  |
|---|--|
| つ | ①「学びの心得」(今週の重点項目)を徹底させる<br>必要教師からの言葉かけをしよう。  |
| か | ②生徒の尊重感に気づかせる。また、学びの意欲を高める。  |
| 心 | ③生徒の思考の深さを促す。また、学びの意欲を高める。   |
| を | ④学び合いを設定し、吟味した発問をする。<br>(「根拠」→「比較 交流」)<br>生徒一人一人が考えを持てるようなもの。<br>生徒同士で共有し、考えを広げたり深めたりできるもの。<br>※グループやペア学習等を行うときには、その目的を明確にし、生徒にも伝えるようにしよう。 |
| ま | ⑤学業で生徒の意欲を高める。また、学びの意欲を必ず  |
| と | ⑥本時の評価をする。また、学びの意欲を必ず  |
| め | ⑦本時の復習(次時への予習)のサイクルを生み出す課<br>題等の提案をする。   |

#### 「水一中版 授業展開モデル」自己評価シート集計

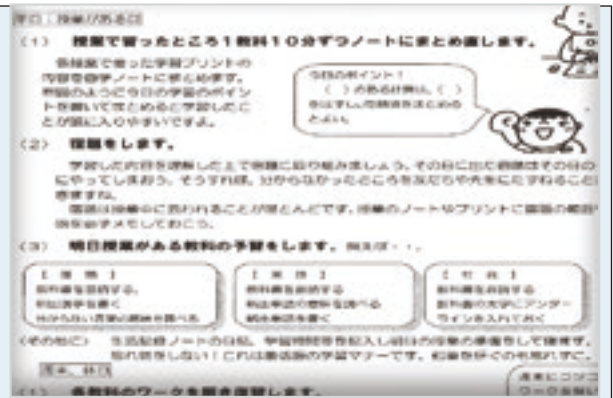
| 項目  | 1学期末 | 2学期末 | 伸び  |
|---|------|------|-----|
| ①「学びの心得」(今週の重点項目)を徹底させる必要教師からの言葉かけをしよう。   | 8.0  | 8.5  | 1.0 |
| ②生徒の尊重感に気づかせる。また、学びの意欲を高める。   | 4.0  | 4.5  | 1.0 |
| ③生徒の思考の深さを促す。また、学びの意欲を高める。  | 5.0  | 5.5  | 1.0 |
| ④学び合いを設定し、吟味した発問をする。(「根拠」→「比較 交流」) 生徒一人一人が考えを持てるようなもの。 生徒同士で共有し、考えを広げたり深めたりできるもの。 ※グループやペア学習等を行うときには、その目的を明確にし、生徒にも伝えるようにしよう。 | 2.0  | 3.0  | 1.0 |
| ⑤学業で生徒の意欲を高める。また、学びの意欲を必ず   | 2.0  | 3.0  | 1.0 |
| ⑥本時の評価をする。また、学びの意欲を必ず   | 1.0  | 2.0  | 1.0 |
| ⑦本時の復習(次時への予習)のサイクルを生み出す課題等の提案をする。  | 1.0  | 2.0  | 1.0 |

(図3)

## ウ 家庭学習の充実に向けた取組

### (7) 「家庭学習の手引き」の改訂と指導の徹底

家庭学習の内容の充実を図るために、予習→授業→復習のサイクルになるように、かつ、生徒の実態に応じた取り組みやすい内容になるように改良して今年度版(図4)を作成した。配付に際しては、生徒一人一人に周知・徹底が図られるように、学年集会等を使って、学年ごとに活用の仕方について説明を行った。

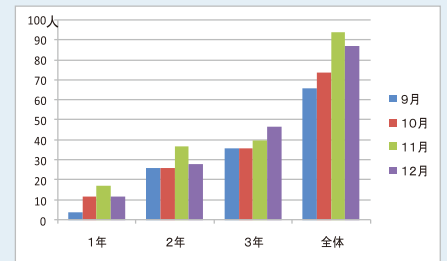


(図4)

### (イ) 「家庭学習時間調査」の取組

生徒の家庭学習時間の実態把握とその変容を見取るために、各月の一週間を「家庭学習強化週間」と定め、1週間の家庭学習時間を調査して比較した。ただし、大きな行事やテスト等がない週間を抽出して調査するようにした。

|     |        |        |         |        |
|-----|--------|--------|---------|--------|
| 9月  | 572分/週 |        | 81.7分/日 |        |
| 12月 | 670分/週 | +98分/週 | 95.7分/日 | +14分/日 |



(図5)

○学年が上がるにつれて、家庭学習時間も増加傾向にある。

○各個人の学習状況：1日2時間(120分)以上の学習時間達成者も増加傾向にある。(図5)  
：1日当たり60分未満の生徒数は概ね減少してきている。

▲学級によっては全く家庭学習をしない生徒数が増加していたり、変わらなかったりという課題も見られる。→60分未満の生徒への具体策にも目を向けていく必要がある。

## エ 学習規律の徹底に向けた取組

望ましい学習習慣を身につけさせるために、学習規律の徹底に向けた取組を行った。昨年度から、生徒会の学習委員会が中心となり「学びの心得」の徹底を図る取組を実践してきている。今年度は、さらに授業をする職員の意識を高めることが必要だと考え、先述した「授業展開モデル」の中に、「学びの心得」重点項目の徹底を図る場の設定を行い、教師の自己評価の項目にも加えた。



職員室の掲示物

### (2) 道徳教育研究部の取組

#### ア 「学び合い」を工夫する取組

道徳の時間は、ねらいとする道徳的価値について生徒自身がどのように捉え、どのような葛藤があるのか、また価値を実現することによってどのような意味を見いだすことができるのかなど、道徳的価値を自己との関わりにおいて捉える時間である。そこで、学習活動を工夫し、生徒が自分の問題として受け止めるための手立てを考えることや学習形態を工夫し、生徒と教師、生徒相互の対話を深めるための手立てを考え実践することにした。

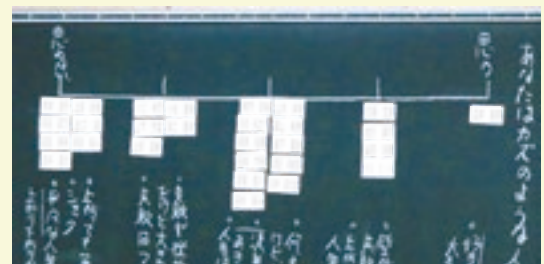
#### (7) 学習活動の工夫

##### ① ネームカードの利用

自分の意見をネームカードで示す。なぜそのように考えたのか理由も考えさせる。

##### ② 自分の考えを他者に伝えやすくするための工夫

発問に対して、自分はどう思ったのかを、段階的、視覚的に表現することができるような教具を作成し、自分の考えた理由を他者に伝えることが容易にできるような工夫をした。できるだけ教具とワークシート、または板書をつなげて考えることができるようにした。



ネームカードを利用した板書

### ③ペア、グループでの話し合い活動

生徒同士の相互理解や見方・考え方を高めたり、深めたりする話し合い活動は、話すことと書くことを並行して実施した。

- 話し合う内容や目的を明確に説明  
「考えを出し合う」「意見をまとめる」「意見を比較」  
\* 教具やワークシートを活用して自分の考えを表現  
↓
- 意見・考えを全体で共有  
↓
- 見方・考え方の高まりや深まり、生徒同士の相互理解



#### (4) 発問の工夫

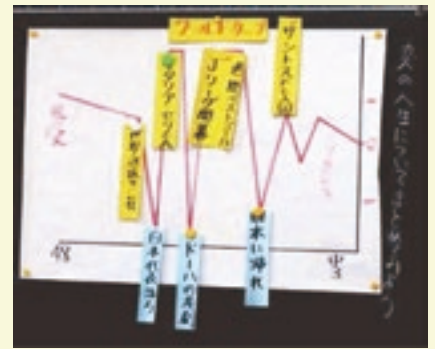
- 内容項目の分析と把握を行い、本時のねらいを明確に設定
- 中心発問検討  
(生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解できるか、自己を見つめることができるか、物事を多面的・多角的に考えることができるか)
- 中心発問を生かすための発問検討

### イ 指導方法改善への取組

道徳の時間が充実したものになるように、指導方法や指導体制の工夫に取り組んだ。

#### (7) 板書の工夫

- ・ 教材の登場人物の心情が生徒へ理解しやすいように、円や線等の図形を用いて表現
- ・ 気持ちを高さや割合で表現して登場人物の心情を把握
- ・ 図を用いるなどして、心情を割合で示すなどの工夫



#### (4) ICT機器の活用

資料への興味を持たせたり、生徒の思考を深めたりすることができる。

- ・ 大画面テレビとコンピュータを利用
- ・ 導入段階での活用
- ・ 資料の提示の場面での活用や発問の提示
- ・ 終末でのまとめに活用
- ・ 板書との関わりがわかるような活用



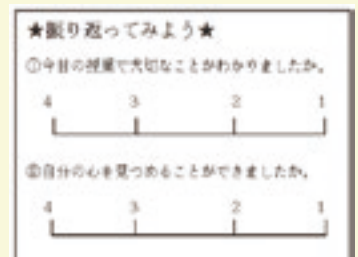
#### (7) 学年での授業検討会の実施

学年会の時間を使って、学年部の職員で授業を検討する時間を設け、毎時間の授業が充実するように努めた。各学年3学級ずつあるため、各担任が週替わりで提案し、主に中心発問を練り合う時間を設けた。

### ウ 評価について

「生徒の学習状況への評価」と「教師の指導に対する評価」を行っていくこととした。

- 「生徒の学習状況への評価」→ 生徒の自己評価で行う  
(毎授業の終末) 価値項目に対する自己評価と授業参加に関する自己評価  
その時間での考えのまとめ → 生徒の学習の深まりを確認  
↓  
ワークシートを「道徳ノート」に保存 → 学期・学年を通して道徳性の高まりを評価
- 「教師の道徳の指導に関する評価」→ 生徒の感想等で行う → 事後指導に活用



生徒の自己評価